

メタルプロダクツ Mグレード取得

二次部材専業で差別化を図る

メタルプロダクツ（本社・山形県真室川町、社長・渡邊進氏）は、5月29日付で全国鉄骨評価機構による鉄骨製作工場認定でMグレード（国土交通大臣認定）を取得した。同社は胴縁および二次部材を主力とする専門メーカーであり、グレードなしの状態からRグレードを経てMグレード取得に至ったケースは、全国的にも極めて稀有な事例だ。

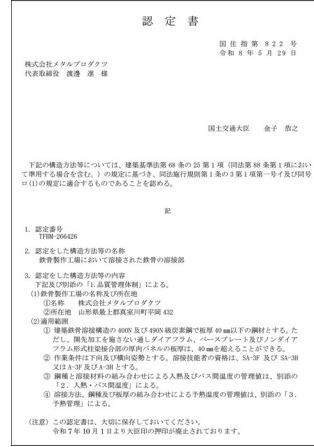
材育成のみで認定基準をクリアした。溶接管理、品質管理、図面管理などMグレードで求められる厳格な体制を一から構築したため、取得までに一定の期間を要したものの、渡邊社長は「社内全体の技術力と品質意識が大きく底上げされた」と話す。

また同社はデジタル化や生産性向上への投資にも積極的に取り組む。AIを活用した図面管理システムの導入をはじめ、ロボット溶接機の導入や塗装ブースの新設など、中小規模の二次部材メーカーとしては異例ともいえる設備投資を継続的に実施。これにより、顧客の高度な品質要求や短納期ニーズに確実に応える体制を整えている。山形県という地方の立地ながら、同社は「距離のハンデ」を補う独自の運用体制を構築し、顧客からの評価を高めている。現場の稼働停止リスクを最小

限に抑えるため、追加材や手直し材への即応、現場との密な連携、トレーサビリティの徹底を図り、遠隔地のゼネコンや鉄骨ファブから高い信頼を獲得している。

胴縁や二次部材の分野ではグレード未取得工場が担うケースが一般的だが、その中で今回のMグレード取得により「二次部材×Mグレード品質」という独自の専門領域を確立し、全国的な差別化に成功した。今後の展望について、渡邊社長は「今回の取得を機に、

二次部材の品質基準を規模案件への参入拡大や地域鉄骨産業の高度化にも貢献していく考たい」とし、今後は大



Mグレード取得の認定証

